

6. 重要湿地調査

(1) 調査概要

①調査目的

震災による「重要湿地 500」への影響を把握するため、東日本を中心に震災の影響を受けた可能性のある 169 箇所について調査を実施した。

②調査項目

- ・既存資料調査：モニタリングサイト 1000 や本事業など生物多様性センターが実施した調査結果を整理するとともに、既存情報のない 121 箇所 204 項目※について、都道府県と環境省地方環境事務所へのアンケートや web 検索により既存資料情報の収集を実施 ※項目：重要湿地 500 選定基準の項目（湿原植生、水草等の生物群）
- ・現地視察：既存情報が不足していた湿地の現地視察を実施（10 箇所）

(2) 調査結果

- ・生物多様性センターが震災後に実施した調査は 58 箇所 96 項目であった。
- ・都道府県アンケート、環境省地方環境事務所アンケート、Web 検索を行い、69 箇所 93 項目について現地調査に基づいた文献情報 302 件を収集した。そのうち、震災後の情報を収集できたのが 7 箇所 7 項目であり、生物多様性センターが実施した調査と併せると、61 箇所 103 項目について震災後の情報を収集・整理できた。
- ・全体として、既存情報の少ない項目は湿原植生と昆虫類である。昆虫類については、報告例の多くがトンボ類に関する情報であり、その他の昆虫類の文献は比較的少なかった。
- ・津波浸水域を含む重要湿地は表 6.1 に示す 18 箇所である。生物多様性センターが実施した調査と併せると、表 6.1 の 18 箇所 41 項目のうち 17 箇所 37 項目で、震災後の情報を収集できた。
- ・表 6.1 の「一宮川ならびに夷隅川河口干潟」の一宮川河口、夷隅川河口、塩田川河口及び日在浦沿岸の一部の湿地について現地視察を行ったが、震災 2 年を経たこともあり、著しい津波影響の痕跡は確認できなかった。

表 6.1(1) 津波浸水域を含む重要湿地の文献収集調査結果

番号	湿地名	都道府県	市町村	湿地タイプ	生物群	生育・生息域	選定理由	収集結果
64	小川原湖沼群(尾駱沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、高瀬川、小川原湖など)	青森県	上北郡東北町・六ヶ所村、三沢市	湖沼、潟湖、河口干潟のあり河口域	湿原植生	小川原湖沼群(尾駱沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、高瀬川、小川原湖など)	ハンノキ林、水生植物群落など。53種を超える水生植物が確認されている。	○
					水草	下北半島湖沼群	尾駱沼～小川原湖にかけての湖沼群。種の多様性に富んだ水生植物群落が成立し、一部を除き自然度は高い。	×
					淡水藻類	市柳沼	絶滅危惧Ⅰ類のシヤジクモが生育。	×
					ガン・カモ類	小川原湖沼群(小川原湖および周辺水田、尾駱沼)	オオハクチョウ、コハクチョウの渡来地。鷹架沼、市柳沼、田面木沼ではカンムリカイツブリの繁殖が見られる。	○
					昆虫類	小川原湖沼群(尾駱沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、高瀬川、小川原湖など)	モートンイトトンボ、オオキトンボ、ババアメンボ、アンマダラウンカ、ハコネマルツノゼミ等の生息地。下北半島南部に並ぶ湖沼群のうち六ヶ所村内に含まれる北から尾駱沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼の各湖沼。北部の2湖は太平洋に連絡した汽水湖で、遠浅の湖岸には湿原植物群落が広がる。固有の昆虫こそ知られていないが、冷涼な気候下、汽水性の湿原とそれに続く草原が残された特殊な環境となっており、十分な調査研究は進んでいないものの、本州や青森県ではここでしか生息が確認されていない種など多数の貴重な昆虫が分布している。	○
					淡水貝類	下北半島の湖沼群	種の多様性が高く、ヒダリキモノアラガイ(絶滅危惧Ⅰ類)の生息地。カワシンジュガイ(絶滅危惧Ⅱ類)、ヌマコダキガイも生息。	○
					底生動物	小川原湖沼群(尾駱沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、高瀬川、小川原湖など)	ヤマトシジミ、カワザンショウや希少種タカホコシラトリの生息地。	○

表 6.1(2) 津波浸水域を含む重要湿地の文献収集調査結果

番号	湿地名	都道府県	市町村	湿地タイプ	生物群	生育・生息域	選定理由	収集結果
74	アッカ 安家川	岩手県	下閉伊郡岩泉町、九戸郡野田村	河川	淡水貝類	安家川	カワシジミガイ(絶滅危惧Ⅱ類)の多産地。アッカミジンボの模式および唯一の生息地。	○
80	陸中リアス海岸の湾奥沿岸湿地群(宮古湾、山田湾、船越湾、大槌湾、釜石湾など)	岩手県	宮古市、下閉伊郡山田町、上閉伊郡大槌町、釜石市ほか	干潟、藻場	海草	山田湾	生物多様性の高い藻場(わずかにアマモ、スガモ、中央部にスゲアマモの高密度な純群落)。	○
					海草	船越湾	アマモ、タチアマモの生育地。	○
					海草	大槌湾	アマモ、スゲアマモ、タチアマモ、スガモの生育地。	○
					底生動物	陸中リアス海岸の湾奥干潟群(宮古湾、山田湾、大槌湾、釜石湾など)	様々な浅海性ベントスの生息地。	○
81	三陸沿岸の外洋性藻場	岩手県	下閉伊郡山田町、上閉伊郡大槌町、釜石市	藻場	海藻	三陸海岸	コンブ場などと混在し、地先の生物多様性が高い、ワカメ生育地。エゾノネジモクの大群落。	○
82	広田湾	岩手県、宮城県	岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市	藻場	海草	広田湾	アマモ、タチアマモ群落。	○
83	南三陸海岸沿岸(御伊勢浜ほか)	宮城県	気仙沼市ほか	浅海域	ガン・カモ類	南三陸海岸(御伊勢浜ほか)	コクガンの渡来地。	○
84	志津川湾	宮城県	本吉郡南三陸町	藻場	海草	志津川湾	アマモの4種(アマモ、タチアマモ、スゲアマモ、スガモ)が生育する。アマモ場のほか、コンブ場、アラメ場、ガラモ場という4つのタイプの藻場が良く発達する。コンブとアラメが混生する大変貴重な場所。	○
85	万石浦	宮城県	石巻市	浅海域、藻場	海草、海藻	万石浦	アマモの生育地。湾奥部にアサクサリ(絶滅危惧種)が生育。	○
					底生動物	万石浦	カキ、アサリ、オキシジミ(北限)、ウミナナの生息地。	○
86	仙台湾および仙台海浜(松島湾、蒲生干潟、井戸浦潟、広浦、鳥の海など)	宮城県	石巻市、仙台市、亶理郡亶理町、宮城郡松島町、塩釜市ほか	潟湖干潟のある汽水湖沼、干潟、浅海域、藻場	湿原植生	仙台海浜潟湖群(松島湾、蒲生干潟、井戸浦潟、広浦、鳥の海など)	ハマニクエーコウボウムギ群落、ハママツナ群落、シオクグ群落、ヨシ群落、シバナ群落など。鳥の海のヨシ群落にアサクサリ(絶滅危惧種)が生育。	○
					海藻	仙台湾	コンブ、アラメ場などと混在し、地先の生物多様性が高い、ワカメ生育地。	○
					海草	松島湾	内湾性の強いアマモ場。	○
					ガン・カモ類	蒲生海岸	コクガンの渡来地。	○
					底生動物	松島湾内の干潟群	アサリ、カキなどの生息地。	○
					底生動物	蒲生干潟	ゴカイ、イソシジミ、アシハラガニなどの生息地。フトヘナタリ(北限)、カワザンショウ類(ムシヤドリカワザンショウ)など塩性湿地性の底生生物も豊富。	○
					底生動物	井土浦潟・名取川河口	多毛類、カニ類の生息地。	○
					底生動物	広浦	まとまった干潟とヨシ原があり、ベントスの生息条件を備えている。ウミナナの生息地として重要。	○
底生動物	鳥の海	ホソウミナナ、ウミナナ、イソシジミ、ゴカイ、アサリなどの生息地。	○					
92	北上川(河口ナガハラ城)・長面浦	宮城県	石巻市、登米市	河口干潟、塩性湿地	湿原植生	北上川(河口城)・長面浦	北上川河口域に沿ったヨシ、マコモ、ガマなどの抽水植物群落とヤナギ低木林。長面浦に砂浜植物群落、アサクサリ(絶滅危惧種)。	○
					昆虫類	北上川(追波湾)河口	北上川最下流域の汽水性の河川湿地で、ヒメイトトンボの既知北限であり、カスミササキリ、未記載種と考えられるナガマキバサンガメ、オオナガマキバサンガメ、ジュウホシテントウなどが確認されている。	○
					底生動物	北上川(河口城)・長面浦	ヤマトシジミ、アサリ、コメツキガニ、アシハラガニなどの生息地。長面浦にはアシハラガニ、アリアケモドキ、ホソウミナナが生息する。	○
118	松川浦	福島県	相馬市	潟湖	底生動物	松川浦	ホソウミナナ、イソシジミ、ゴカイ、アサリなどの生息地。	○
126	小名浜、塩屋崎周辺沿岸	福島県	いわき市	藻場	海藻	小名浜、塩屋崎周辺沿岸	コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落。	○
133	北茨城市地先海岸	茨城県	北茨城市	藻場	海藻	北茨城市地先沿岸	コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落。	○
134	伊師浜、小貝浜、高磯	茨城県	日立市	藻場	海草	伊師浜	エビアマモの生育地。	×
					海草	小貝浜、高磯	エビアマモの生育地。	×
135	那珂湊地先沿岸(大洗、平磯、阿字ヶ浦)	茨城県	ひたちなか市、東茨城郡大洗町	藻場	海草、海藻	那珂湊地先沿岸(阿字ヶ浦、平磯、大洗)	(大洗・平磯)エビアマモの生育地。(大洗・阿字ヶ浦)コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落。	○
154	犬吠埼周辺沿岸	千葉県	銚子市	藻場	海草、海藻	犬吠埼周辺沿岸	エビアマモの生育地。コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落(寒流系海藻の分布の南限域)。	○
157	九十九里浜(栗山川～新川)	千葉県	匝瑳市	砂浜	シギ・チドリ類	九十九里浜(栗山川～新川)	春秋の渡り期の個体数が比較的多い。ミコシギでは最小推定個体数の1%以上が記録されている。	○
164	一宮川ならびに夷隅川河口干潟	千葉県	長生郡長生村・宮町、いすみ市	河口干潟のある河口域、潟湖干潟	湿原植生	一宮川河口の塩湿地	ヨシ・シオクグ群落、ヨシ・イソヤマテンツキ群落。	○
					シギ・チドリ類	一宮川河口	春秋の渡り期の種数・個体数が比較的多く、ミコシギでは最小推定個体数の1%以上が記録されている。RDB種のアカアシシギが記録されている。	○
					底生動物	一宮川ならびに夷隅川河口干潟	九十九里浜から外房にかけての唯一に近い干潟であり関東太平洋岸における干潟生物の着床場として重要。主要ベントスとしては、ヒガタスナホリムシ、イソシジミガイ、オオノガイ、ヤマトオサガニ、コメツキガニなど。	○